

平成25年度白鬚宮秋祭りのご案内

白鬚宮奉賛会会長 和気 健

平素より、白鬚宮に対しまして暖かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。先の台風18号は全国各地に甚大な被害をもたらしたようです。被災された方々には心からのお見舞いを申し上げたいと存じます。

さて、幸いにして我が地域には大きな被害もなく今年も有り難く実りの秋を迎えることができました。我が地域の氏神様である白鬚宮に地域の無事を感謝し、更なる安寧を共に祈願する秋祭りを下記の通り開催したいと存じます。お繰り合わせの上、ご参拝下さいますようご案内申し上げます。

白鬚宮秋祭りの最大の特徴は、皇紀2600年を祈念してつくられた「浦安の舞」が、地元の幼子たちによって優雅に繰り広げられるということです。この舞は、伝承が途切れており、全国的にも珍しく滅多に見ることは出来ません。是非ご覧いただきたいと思えます。

また、奉納子ども相撲は各町内会から選りすぐりの少年力士たちの熱戦と応援にと力が入り境内が大変盛り上がりします。因みに、昨年は、低学年も高学年の部も田中野田の子どもが優勝という快挙がありました。今年も昨年同様頑張っていたきたい。多いに期待しているところです。

皆さまの参拝を心よりお待ち申し上げます。

記

1 開催日 平成25年10月20日(日) 2 浦安の舞 12:00 3 子供相撲 13:15

雑記帳

中秋の名月



記録づくめの暑さもようやく峠を越えると急に秋めいてきた。澄み切った秋の夜空の月が美しい季節を迎える。中でも旧暦8月15日の満月を中秋の名月という特別の日だ。

調べてみると、満月前後の呼び方を十三夜、子望月(こもちづき)、十五夜、十六夜(いざよい)、立待月(たちまちづき)、居待月(いまちづき)、寝待月(ねまちづき)、更待月(さらまちづき)という。一夜一夜にそれぞれ名前が付いているというから驚きだ。地域によっては二十三夜待ちまで、或いは、二十六夜待ちまで行う地域があるという。

加えて、中秋の夜に雲などで月が隠れて見えないことを無月(むげつ)、中秋の晩に雨が降ることを雨月(うげつ)と呼び、月が見えないながらもなんとなくほの明るい風情を楽しむというものだ。古の日本人がどれほど月を愛で、崇めてきたか、また、自然に対する感性が豊かだったかを窺い知ることが出来る。

月見は、平安貴族などの間で観月の宴や、水に月

を写した舟遊びで歌を詠んだというのが始まりだったという。彼らは月を直接見ることをせず、杯や池にそれを映して楽しんだようだ。

日本にこれだけ月を表す言葉があるのは、単に貴族だけのものではあなかったからではあるまい、誰でも平等に観月できるものだ。庶民にとっても大きな楽しみだったに違いない。

現代では、月が見える場所などに、すすきを飾って月見団子・里芋・枝豆・栗などを盛り、お酒を供えて月を眺めるのが一般的だ。いわゆるお月見料理と呼ばれるものだ。それぞれの家の縁側で行われていたがあまり見ることもなくなった。

我々は、経済的に豊かになったかもしれないが精神的には随分と貧しくなっているのかもしれない。私事だが、今年の中秋の名月は町内会のグループに呼ばれ、風流に過ごさせて頂いた。こうした季節の行事は、なぜか日頃のストレスを解消させてくれるから不思議だ。

(T・W)